

田中康夫氏「水際対策の失敗」

長野県知事や衆・参両院の議員を経験した作家の田中康夫氏「写真」が新型コロナウイルスへの対応について、鋭い論評を展開している。

「日本の対応で一番の問題点は、最初の認識が鈍く、『対岸の火事を水際で防げばよい』と考えたこと

だ。中国・武漢市からのチャーター便の乗客に、健康面の検査の書類が何も用意されていなかったとされるのが、典型だ」

横浜に停泊中の大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」でウイルス感染者が毎日のように増え、542人に達した(18日現在)。田中氏が言った。

「3711人もの乗客・乗員を船



内に「幽閉」し続けた。感染者が大量に出る場となった。閉鎖空間なので、感染率が高い。まるで日本に新たな感染源ができたようなものだ。各国が批判・非難したのは当然だ」

どんな様子か。

「ロシアのウラジーミル・プーチン大統領の報道官は『日本の対応には大きな疑問がある。カオスだ。混沌(こんとん)として場当たり的だ』と言った。米ニューヨーク・タイムズ紙は『ここ

に、最もパンデミック(世界的流行)のケースにしてはいけない教科書を日本が作っている』と書いた。各国は日本に不信感を持ち、自国民の救済に動いた」

鈴木棟一の風雲水田町

6240

「中国から戻った179人をマル

ベきだった」フランスの対応とは。

具体的には。

「まず、米国が2機のチャーター機で米国人を收容し、フランスやカナダ、香港、韓国が、日本政府から自国民の「奪還」に動いた」

どうすればよかったのか。「フランスが見事な対応をした。乗客を早く船から降ろして、隔離す

スクさえすれば隔離者は自由に庭園を散策し、テニスを楽しめる。幼児向けの図工教室も開設され、食事も充実している」

東京五輪・パラリンピックの開催を懸念するIOC(国際オリンピック委員会)のジョン・コーツ調整委員長に、選手村の川淵三郎村長が言ったという。

「日本に梅雨という、ウイルスをやっつける最高の季節がある」

田中氏が反論した。「シンガポールでも77人の感染者

が出ている。気温が最高32度、最低でも26度、湿度は83%だ。川淵氏の主張は、当たらない」

この新型コロナウイルスは当分、収まりそうにはない。(政治評論家)

「最初の認識、鈍すぎた」